「授業視点（デジカメ）記録法」の開発

—効果的な授業計画支援法—

中川　宣子
（京都教育大学附属特別支援学校）

Recording Teachers' Viewpoints of Teaching and Learning Activities
An Effective Strategy to Support Curriculum Development by Using a Digital Camera

Noriko NAKAGAWA

2010年11月30日受理

抄録：「授業視点（デジカメ）記録法」とは、授業者の「授業視点」（授業者が授業目標や生徒の実態、教材・教具、指導のポイント等をどのような観点で把握しているか）を明確に記録する方法である。この記録法を実践、活用することにより、次授業を効果的に計画し、授業効率をあげ、さらに授業者の授業力向上を支援することができると考える。本稿では、「授業視点（デジカメ）記録法」の作成方法や、実践事例を報告する。

キーワード：「授業視点」、「授業視点（デジカメ）記録法」

Ⅰ．目的

本研究の目的は、よりよい授業づくりのための授業記録方法の開発である。筆者は、授業者による「授業視点」を視覚的に記録することに着目した。この「授業視点」を明確に記録し、分析、検討することで、授業を改善し、効果的に授業を計画できると考えた。ここでいう「授業視点」とは、授業者が、授業目標や、生徒実態、教材・教具、指導のポイント等、授業展開において授業者が授業をとらえる着眼点をいう。

Ⅱ．方法

研究方法は以下の通りである。

1．授業記録方法の検討

（1）従来の授業記録方法による授業記録の実施

①対象　A特別支援学校　中学部　作業学習

「卒業制作　小屋づくり」

②期間　2007年1月18日～3月6日（授業回数14回）

（2）授業記録方法の分析、問題点の抽出

2．授業記録方法の開発＝「授業視点（デジカメ）記録法」

（1）（仮）授業視点記録フォーマットの作成

（2）（仮）授業視点記録フォーマットによる授業記録の実践

（3）授業視点記録の分析、検討

（4）「授業視点（デジカメ）記録法」の開発

3.「授業視点（デジカメ）記録法」の実践

（1）対象　A特別支援学校　中学部　作業学習　4題材

小学部　合同生活・生活　2題材

（2）期間

①中学部　作業学習　「花壇づくり」

2007 年 5 月 18 日～ 6 月 30 日（授業回数 12 回）

②中学部　作業学習　「エコバックづくり」

2007 年 9 月 11 日～ 11 月 13 日（授業回数 11 回）

③中学部　作業学習　「ベンチづくり」

2008 年 1 月 24 日～ 2 月 21 日（授業回数 7 回）

④中学部　作業学習　「絞り染めハンカチづくり」

2008 年 9 月 9 日～ 11 月 15 日（授業回数 9 回）

⑤小学部　合同生活　「お話あそび」

2009 年 10 月 2 日～ 10 月 16 日（授業回数 7 回）

⑥小学部　生活　「ジャンボスライダー」

2010 年 6 月 1 日～ 6 月 18 日（授業回数 10 回）

（3）「授業視点（デジカメ）記録法」の分析、検討

Ⅲ. 結果と考察

1. 授業記録方法の検討

A特別支援学校中学部作業学習「卒業制作　小屋づくり」の授業記録を実施した。その記録手順は、

①授業実施前に、授業目標を確認する

②授業実施時に、ビデオカメラを一カ所に固定し、撮影記録する

③授業後、授業目標を再確認し、この目標に関連した活動事象について、映像を手がかりに記述する

④また、授業者が、授業実施過程で観察し、強く印象に残った状況や生徒の活動実態について記述する

⑤次授業への改善点を記述する

である。

この授業記録方法は、授業者が実践する記録方法として、ごく一般的な従来の授業記録方法であるといえる。そこで、この授業記録実践から、その長所と問題点を抽出した。

【長所】

・時間や特別な設定・装置がいらないため、比較的簡単に行える。

・記録はいつでも何度でも見ることができる。

・多様で複雑な授業活動全般をとらえることができる。

【問題点】

・記述にたいへん時間を要する

・客観的事象と授業者の意図や解釈が混同して記述される

・授業目標に関連した記述が案外少ない。

・記録の読み手と書き手（授業者）との間で、ことばの解釈による差が生じる。

・授業のポイントを焦点化した記述になりにくい。

・次授業計画のための記録として、やや活用しにくい。

以上、従来の授業記録方法の長所を活かしつつ、問題点を解決し、実践的な授業記録にするためには、授業者の「授業視点」を明確に記録する必要があると考えた。さらに、「授業視点」を視覚的に記録できる方法を考案した。

２.「授業視点（デジカメ）記録法」の開発

「授業視点（デジカメ）記録法」の開発にあたり、写真の撮り方、記入項目の選定、フォーマットの作成・修正等、試行錯誤を繰り返し行った。その結果、以下の「授業視点記録フォーマット」（図１）を作成し、これを用いて授業を記録する方法を開発した。

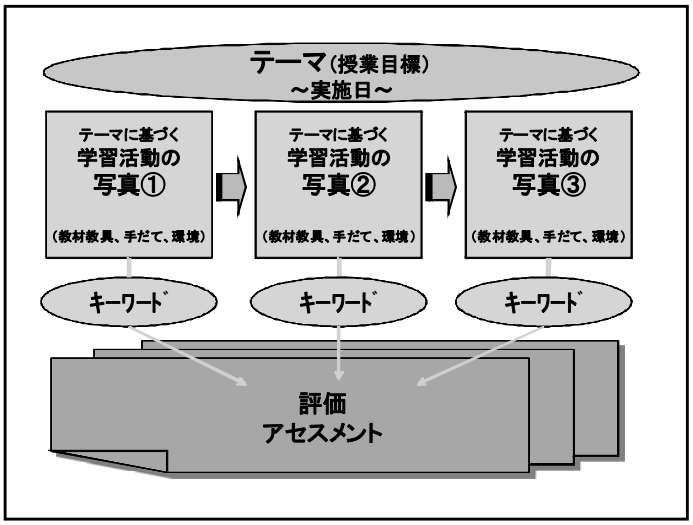

図１.「授業視点記録フォーマット」

「授業視点（デジカメ）記録法」は、授業を実践する「授業サイクル（Plan-Do-Check-Action)」に沿って、上記の「授業視点記録フォーマット」に記録していく方法である。「授業サイクル」それぞれの段階の記録方法は、以下の通りである。

（1）Plan（計画）段階

まず授業実施前に、授業目標と授業計画を確認する。そして「授業視点記録フォーマット：(テーマ)」の欄に、授業のテーマ（授業目標）を記述する。日付、時間数も記述する。

（2）Do（実施）段階

授業目標（テーマ）と授業計画を念頭に置きながら、授業者が、「これぞ！」と思った授業場面、生徒の活動の様子、教材・教具の活用状況等の着眼点を、デジタルカメラを使い瞬時に撮影記録する。（活動の経過を記録する場合には、ビデオ機能を使って映像を撮影記録する。）

（3）Check（評価）段階

授業後、授業者は、「授業視点記録フォーマット」を開き、授業実施時に記録した写真（映像）の中から、授業者がとらえた授業着眼点を表す３枚の写真（映像）を選択し、「授業視点記録フォーマット：(テーマに基づく学習活動の写真①②③)」に貼り付ける。

次に、選択した３枚の写真（映像）一枚ごとを手がかりに、その場面で、授業者が何を観察し、何を把握したかについて、考察する。そして考察した内容から、キーワードを抽出し、「授業視点記録フォーマット：(キーワード)」に記述する。

（4）Action（改善）段階

上記、授業記録内容１）～３）より、授業目標、生徒実態、教材・教具、指導ポイントについての分析を行い、「授業視点」を評価し、「授業視点記録フォーマット：(評価・アセスメント)」に記述する。さらに、次授業への改善点を分析、検討し記述する。そして、「授業視点記録フォーマット」を活用して、次授業計画へフィードバックする。

３.「授業視点（デジカメ）記録法」の実践

実践例①「花壇づくり」では、「(仮) 授業視点記録フォーマット」の試行期でもあり、授業回数 12 回で 20 枚の授業記録を作成した。（図２）に見られるように、授業者が記録として選択した写真数が多い。この結果は、授業者がいかに焦点化して記録することが困難であるかを示している。この要因として、授業者の授業着眼点は多様であること、授業目標に基づいた焦点化した授業実施の難しさがあること、また授業目標自体が授業計画の段階では曖昧であり、実施段階とのギャップがあることが考えられる。しかし、「授業視点記録フォーマット」の活用によって、授業実施の中で、授業者が何を重要視していたか、つまり「授業視点」について、明確に記録されることが示された。写真記録そのものが、授業者の着眼点を表しており、さらにキーワードとして言語化することで、これらの内容はまさに、授業者による「授業視点」の記録であるといえる。この記録が可能となれば、「授業視点」と授業目標・授業計画との照合や、教材・教具、指導法の分析、検討が効率的に実践できるようになる。このことは、次授業への改善、次授業計画のための有効な方法になると考える。

また、実践例②「エコバックづくり（図３)」、実践例③「ベンチづくり（図４)」、実践例④「絞り染めハンカチづくり」では、授業目標に基づいた写真記録、記述内容が次第に的確になった過程が見られた。これは、「授業視点（デジカメ）記録法」による授業記録を継続する中で、授業目標と授業計画がより具体的に立てられるようになり、さらに授業記録で視覚的に授業をフィードバックできることから、授業目標に準じた授業実施を可能にした結果と考えられる。さらに、「授業視点」の観点からいえば、生徒実態把握状況や授業展開方法、教材・教具の使い方、指導法等、その授業者特有の授業着眼点を、授業記録から把握することができる。このことは、

授業者の授業力向上への支援にもつながると考えられる。

さらに、実践例⑤「お話遊び」、実践例⑥「ジャンボスライダー（図５）」では、実践例①～④の中学部「作業学習」題材から、小学部「生活（遊びの指導含む）」題材の授業記録へと活用範囲を広げた。これにより、授業形態、学習目標等の異なる授業においてでも、「授業視点（デジカメ）記録法」の効果が同等に確かめられた。

今後も「授業視点（デジカメ）記録法」の実践を継続し、授業づくりへの効果を検証していく必要がある。さらに今後の発展としては、対象とする授業記録の活用範囲を広げつつ、また新たな活用方法として、児童生徒の個別の授業記録としての活用や、保護者・児童生徒への学習評価伝達ツールとしての活用も考えている。



図２．実践例①「花壇づくり」授業記録

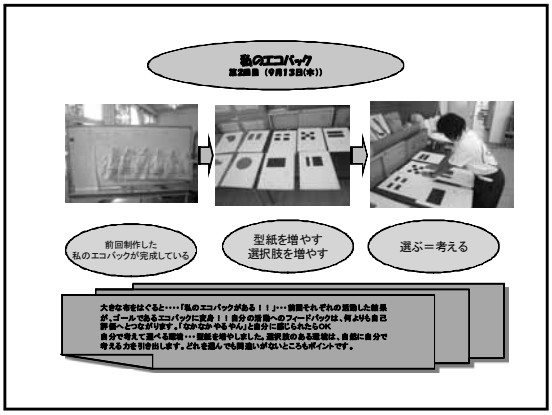

図３．実践例②「エコバックづくり」授業記録

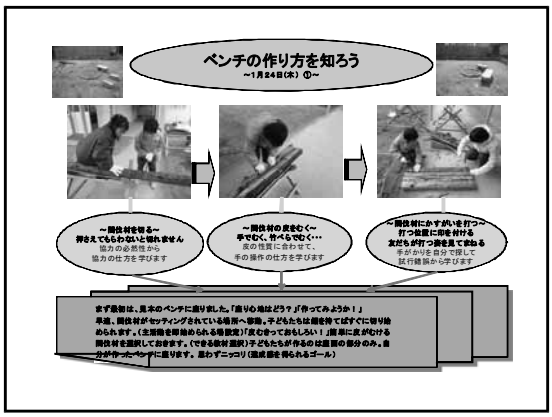

図４．実践例③「ベンチづくり」授業記録

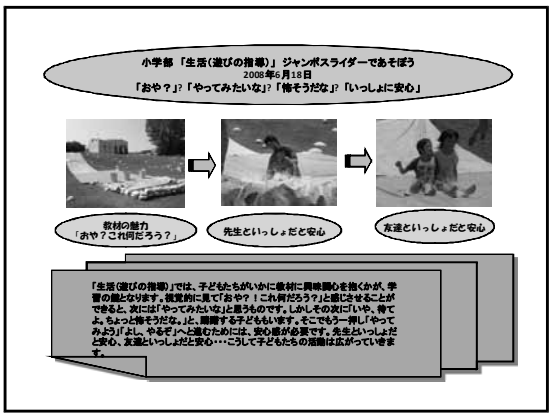

図５．実践例⑥「ジャンボスライダー」授業記録

付　記

本研究の一部は、財団法人パナソニック教育研究財団　第 33 回、第 34 回実践研究助成　研究課題名「授業視点（デジカメ）記録法による授業記録の活用」，研究期間 2008 ～ 2009 年度，研究代表者：中川宣子（京都教育大学附属特別支援学校）の助成を受け実施した。

文 献

中川宣子（2005）授業計画作成のための授業者に対する支援．大沼直樹・吉利宗久（編）特別支援教育の理論と方法．培風館，157 － 170

中川宣子（2008）授業視点記録法を活用した作業学習プログラム開発の試み．日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集，234 p

太田正己（2007）特別支援教育の授業研究法－ロマン・プロセス法詳説－黎明書房